



◆◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 30 号 2014/9/10 発行）



<http://www.iima.or.jp/>



＼1. 理事長 行天豊雄 コラム／

ふらつく金融政策

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140910gyoten.pdf>

世界中の金融当局者達がどうも落ち着きがなくなっている感じがする。前例のない量的緩和の波が世界を覆い、それが金融危機の悪化を抑え、回復の芽を生んだことは誰もが認めている…

＼2. 専務理事 倉内宗夫 コラム／

ウクライナ問題－歴史に学ぶ

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140910kurauchi.pdf>

昨年末から混迷を極めているウクライナ問題は、当初のウクライナとロシアの二国間問題から、欧米そして日本をも巻き込んだ世界規模での対立構造に展開しており、混迷は一層深ま…

■IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新■

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

《掲載内容》

○IIMA Global Market Volatility Index

（グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数）

○購買力平価グラフ

（ドル円）（ユーロドル）（ユーロ円）

■今月の新着レポート■

1. 「ユーロ圏経済の動向 ～周縁国債務危機は終息したのか？～」 山口綾子

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_33\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_33_j.pdf)

2010年頃からソブリン危機に揺れたユーロ圏金融市場は2012年夏場を境に安定を取り戻し、その後は小康状態にある。EUから支援を受けた各国の状況、デフレ懸念、対ロシア制裁の影響などについて報告する

2. 「ケニア：今後の治安情勢の見通しと経済面への影響」 福田 幸正

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_32\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_32_j.pdf)

2013年9月21日、ケニアの首都ナイロビの高級ショッピングモールがソマリアのイスラム武装組織アッ・シャバーブの襲撃を受け、外国人を含む多数の死傷者をだした。このテロ事件はケニアの脆弱性を露呈したが、今後の治安情勢と経済面への影響を見通す。

3. 「アンゴラの現状と展望 ～短期的な外貨資金繰りには懸念ないものの長期的安定性は疑問～」 佐久間 浩司

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_31\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_31_j.pdf)

アンゴラは、資源開発の波にのって、限られた地域、限られた産業で急発展を遂げる今日の典型的な途上国のひとつ。国際収支問題は、豊富な石油輸出や、開発に絡む直接投資の恩恵で差し迫った問題はないが、中長期的な発展に向けては政治体制、社会体制まで含めて課題が多い国。これまでの発展の経緯と今後を見通す上でのリスクを報告する。

4. 「インド経済の現状と注意点 ～モディ新政権誕生に伴う景気浮揚期待は現実となるか～」 中村 明

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_30\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_30_j.pdf)

インドでは、下院総選挙で最大野党のインド人民党（BJP）が大勝し、10年ぶりの政権交代が実現した。新政権の政治基盤は前政権に比べ強固であり、経済構造改革は進捗する可能性が高く、インフレや財政赤字などは次第に改善に向かうとみられるため、景気は緩やかな持ち直しが見込まれる。

5. 「エクアドル経済の現状と注意点 ～経済・財政状況は改善したが、依然としてリスク要因は多い～」 秋山 文子

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_29\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_29_j.pdf)

急進左派である現コリア政権が展開する「大きな政府」路線は、エクアドルに経済発展の加速と政治的安定をもたらした。しかし、その信用力は依然として低い。同国に漂う不透明性の要因と背景を整理した。

6. 「欧米先進国の海外領土の通貨について」 加藤 淳

[http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No\\_28\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_28_j.pdf)

国連加盟国や IMF 加盟国と概ね重なる独立した国家の通貨と比べて、独立国ではない海外領土の通貨について取り扱う資料はあまり多くないものの、海外領土には世界的にも相応に名前が知られ、政治・経済的に重要な役割を担う地域が多数存在する。本稿では、欧米先進国の海外領土の通貨について整理する。

7. 「ユーロ圏経済の「日本化」懸念 ～欧州中央銀行の対応が引き続き重要に～」 山口 綾子

[http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/263\\_j.pdf](http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/263_j.pdf)

長期にわたる景気低迷と緩やかなデフレに代表される、バブル崩壊後の日本のような状態に、欧州も陥ってしまうのではないかと懸念する声がある。民間部門の負債の大きさ、金融機関の経営状態、中銀の対応など、バブル崩壊当時の日本との違いも多く、杞憂に終わるとの見方が一般的のようだ。しかし、今後も中央銀行の対応がさらに重要となろう。

■ 今月の IIMA

早いもので今年の夏も終わり年度後半を迎えようとしています。当研究所では、現在、下半期に向けて外部機関からの委託調査受注に向けて、研究員一丸となって作業を進めているところです。

先日、米国の大学から迎えていたインターンシップの2人の学生が任期を終え、それぞれの母国へ帰国していきました。約2カ月のインターンシップを通して、彼らの日本語もかなり上達しました。彼らの日本観を通じて、我々が普段意識していなかった日本の食生活の多様さ、交通インフラの充実、漫画・アニメなどソフト面の魅力を認識させられました。我々が考えている以上に日本はいい国のようです。移民に関する議論が再び盛り上がっていますが、彼らのような日本文化に理解を持ち、かつ優秀な外国人が日本に多く働くことは、日本経済にとって必

ずプラスになるだろうと強く思いました。今後の2人の学生の活躍に期待したいです。

---

【バックナンバー】

<<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>>

【次号】

2014年10月14日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<<https://m.entryform.jp/m/iima/>>

【各種お問い合わせ】

[admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<<http://get.adobe.com/jp/reader/>>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

---

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.